

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 はっぴい			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ～ 令和7年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ～ 令和7年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ 職員の人員配置を充実させており、専門職を中心に経験豊富な職員が多く、児童の発達段階に応じた細やかな支援を提供出来るよう努めている。 ・ 日々の打合せや話し合いの時間を十分に持ち、各職員が意見を出し合い事業所としての方向性を定めて療育や支援に活かしている。	定期的に会議を開き、利用児童の支援についてお互いに意見を出し合い、共通理解を持ち支援にあたるようにしている。 職員のスキルアップや研鑽のために、事業所内での研修や外部講師を招いた講座の受講、外部研修などへの積極的な参加を促している。	今後も各職員のスキルアップを目指し、事業所内外の研修に積極的に参加することで、専門的な知識と支援技術を高めていくことが出来るように体制を整えていく。
2	定期的にご家族との面談を実施し、ご家族のニーズや子育てに関する相談などを受け、想いを汲み取り支援に活かしている。 利用開始時のアセスメントの他、ご家族との定期的な面談においてモニタリングを行うと共に、職員間で意見を出し合い、丁寧に具体的な個別支援計画の作成を行っている。	定期的な面談の際に、児童の活動の様子を見学して頂きながらモニタリングの話し合いを実施している。 より具体的なニーズを聞き取ることが出来るように、面談の時間をしっかりと確保し、職員の話し合いの内容も充実させるよう努めている。	今後も、子どもたちの発達支援、家族支援、移行支援、地域連携の項目に沿って5領域の視点からより丁寧に具体的な個別支援計画書の作成に取り組む。
3	日々の活動の様子、発達段階に応じた支援などについて、ご家族に詳細な説明をしたり、情報共有を図っている。 必要に応じてご家族の相談を受け付け、子育てに関する悩みや不安に寄り添いながら助言ができるように努めている。	児童発達支援管理責任者と各職員にて、子どもたちの状況やご家族の相談などは情報共有すると共に、各職員の気づきを大事にして子どもたちの支援やご家族への対応が丁寧に細やかに出来るように努めている。 送迎時に直接ご家族と関わる事が出来る機会を大事にし、普段からご家族と丁寧なやり取りが出来るよう努めている。	今後も、管理者、職員、児童発達支援管理責任者が充分コミュニケーションを取り、子どもたちやご家族への細やかで丁寧な支援ができるように取り組んでいきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園や認定こども園、幼稚園との交流の機会がない。	認定こども園、保育園を平行利用している子どもたちの施設と 情報交換を行ってはいるが、子どもたちの交流の場へと発展するケースが少ない。	事業所間だけのやり取りでは、具体的な交流の機会へと発展しないことが多いため、市町や自立支援協議会にも相談するなどして、新たな取り組みを進めていきたい。
2	保護者会などご家族が交流出来る場を作ることが出来ていない ご家族に対するペアレントトレーニングや家族向けの研修会が開催出来ていない	事業所内にてペアレントトレーニングや研修会を実施するためには職員の技術向上と、マンパワーが必要となるが、現時点では児童への支援に注力している。	ペアレントトレーニングや研修会を実施できる人材を育成すると共に、保護者の交流の場を持つために体制を整えていく。
3	第三者委員会など外部の機関を運営に取り入れることが出来ていない。	外部機関と繋がるための体制作りや時間の確保が難しい。	市町や公的団体へ助言を受けながら、体制作りの取り組みを進めていく。